

ゆり苑

平成 21 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成15年4月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	医療法人ゆりの会			
事業所名	グループホームゆり苑			
所在地	( 221-0802 ) 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 1-4-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	12名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月13日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先
----------

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、職員が共に手を取り合って生きていくことがもっとも大切なことと考えています。高齢者グループホームはあくまでも生活の場であることを職員は認識し、各高齢者が持っているおのおのの時間をその人らしく送っていただけるよう生活を組み立てていくことに専念しています。病気を抱えた入居者のひとりひとりのかけがえない時間を大切に、その人が望む、その人らしい生活をホーム内でできる限り実現していくことに事業所として特に力を入れて取り組んでおります。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価機関 評価決定日	平成22年3月12日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点> ・「医療法人 ゆりの会」の傘下であり、隣接している同一グループの齊田医院が、利用者の診療と健康維持にあっている。また、緊急時も24時間即時対応してくれるので、利用者、及び家族には大きな安心感を与えている。 ・東急東横線の白楽駅から徒歩2分の商店街にあり、商店街の一員として日常的に地域に根ざした交流ができています。 ・利用者同士でも職員の支援を得て、できる人ができない人を手助けするなど家族的な関係が自然にできており、利用者は穏やかな日常生活を営んでいる。
<事業所の工夫点> ・食材および施設運営に必要な生活用品を地元で調達することにより、商店街の一員としての付き合いができ親密な協力関係を築いている。 ・食事を重視し、好みや身体の状態に合わせた味付けや調理方法を、個別に適用している。食事作りは、職員が交代で担当しているが全職員が利用者の情報を共有して対応している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

ゆり苑（山野草）

事業所名	グループホーム ゆり苑
ユニット名	山 野 草

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居されている高齢者はこの地域の生活者でもあることを管理者、職員が共通認識として持ち、入居者へは地域のいろいろな出来事をお話し、地域への興味を持っていただいている。	・「利用者の自由、自立支援と自己決定」の理念を、管理者と職員が、日々のミーティングを通して互いに確認し共有して実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周りが商店街のために買い物、散歩等での外出があります。商店の方々から弊ホームの入居者への挨拶やちょっとした会話が日常的に行われ気軽な交流を楽しまれています。	・食材を始め施設運営に必要な生活用品を地元で調達することにより、商店街の一員としての付き合いができ、親密な協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ロコミでの介護相談業務が定常化しています。管理者が中心になって相談に訪れた人への介護支援を行っております。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の都合が折り合わず、いまだに運営推進会議が開催できておりません。	・構成メンバーが決まり体制はできたが、メンバーの日程が合わず開催には至っていない。	・参加可能なメンバーで、先ずはスタートすることから始めては如何でしょうか。早い機会に、第1回の運営推進会議が開催されることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者が多く入居しており、区役所保護課との繋がりを通して弊ホームの実情やケアサービスについて連絡を取り合っています。	・区役所保護課の職員の協力を得て、生活保護受給者の通院をおこなうなど、日常的に緊密な関係を築いている。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については管理者の指導の下に職員は絶対に行ってはいけない行為として認識しております。拘束は職員の勝手な都合であると。拘束に変わる代替ケアを必ず探しています。	・重度の認知症で夜間目が離せない状態になった場合でも、夜勤者を増員するなどの対応にて身体拘束をしないケアを徹底している。 ・玄関、居室とも施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングの中で必ず話される項目です。職員が気付かずに行っているケアの中にも虐待に繋がるようなものが見られるときには職員全員に管理者が徹底し注意を喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記事業、制度についての大枠は理解していますが、実際に活用、支援している状況は認められない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者ご家族との契約等については十分な説明を行い、お互いに行き違いのないようにしている。理解、納得が得られないときには、理解、納得が得られるように話し合いを持つ。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心になって利用者、ご家族の意見、要望を積極的に吸い上げ、職員との話し合いを通して運営に反映している。	・頻繁に来訪する家族とはその都度状況を説明し意見や要望を聞いている。 ・来所が限られる家族には毎週電話で状況を説明し、意見や要望を聞いている。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者の個別の意見交換により、各職員より提案されたものを職員全員に届けるようなスタイルで意見の反映をしています。	・何でも気軽に言える人間関係の構築に努めている。 ・毎朝のミーティングで意見交換、申し送りを十分できるように努めている。 ・管理者との個別面談で意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の理事会時に、運営状況報告の中で就業環境についての説明を代表者は受け、それに基づいて職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の配置上、法人内外の研修の実施はできていないのが現状です。しかし管理者が中心となつての現場の実情に合わせての指導、職員個々人の力量にあわせての指導が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が中心となつて近隣のグループホームとの交流が僅かながら行われている。サービスの質の向上にまでの交流は行われてはいない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期ケアプランについては、サービス利用前より本人との話し合いの中で、本人からの言葉に基づいて立案しており、それで安心をしていただくようにしています。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当該項目については、左記文面とおりに行っており、特に問題はありません。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が、その時必要としているサービスが弊ホーム内で提供できないときには、話し合いを行って解決するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は同じ生活者としてお互いに向き合うように努めています。この人間関係づくりがグループホームの真髄と考えます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しても、上記項目の実施状況と同じです。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者すべての人には当てはまりませんが、できり限りの支援は家族と連携しながら実施しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者には近隣の商店街に馴染みの利用者が多いため、昔の馴染みを大切に支援している。</li> <li>・買い物での外出など、本人の意向に沿った支援を心がけている。</li> </ul>	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には、利用者同士の関係づくりに職員が関与して、お互いに無理のない支え合う関係づくりへの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	左記項目については実施できている。退居後も家族との連携をとり、いろいろな相談のために電話、訪問を受けています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の発する言葉に耳を傾け、日常での振舞いに目を向けて、入居者が何を思っているかを毎日確認しながら生活をしていただいている。	アセスメントで把握した利用者の生活歴や趣味を基に、また、日常の職員との会話の中から利用者の意向や思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活がどのようなものであったのか、近親者から情報をいただき、入居生活に生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、入居者個別の関わりを行い、心身の状態を把握し、その日の状態に合わせ、無理のない一日が過ごせるように個別支援を実施している。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員、主治医、訪問看護師等、いろいろな人から意見、助言をいただき、本人との話し合いの下に介護計画を作成しています。	・利用者との会話で希望を聴き、家族の意向を反映し、医師、職員との話し合いを基本に作成している。 ・職員の意見を入れて管理者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、関わりの中で気がついたことをいろいろな角度から検討して介護計画に反映して実践している。実践結果のモニタリングも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなニーズに対して本人、家族、職員との話し合いを実施して、できる限り実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	下町のような人情ある商店街の中心に立地するという好条件を生かして、地域の中で生きている生活感を肌で感じられるように地域資源を最大限利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿った医療が提供できるように支援をしている。長くかかっていた主治医と弊法人医師との連携もできている。	・隣接の病院が主治医として診ているが、入居前のかかりつけ医、他の専門医とも連携をとり利用者の希望に沿った対応をしている。	



ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する医院の看護師や週一訪問する弊法人の看護師と連携は密に取れており、必要な情報交換、相談業務は円滑に行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、入院先主治医、弊法人医師、看護師、介護職員が一体となって情報交換を行い、利用者の早期退院、再入居に常時備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人、家族との話し合いを持ち、本人、家族の希望に沿って重度化したとき、終末期の対応に努めている。	・入居時の本人、家族の要望を尊重し、医師との協力で可能な限りケアする旨話し合っている。 ・3件の看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を積んではいないが、概ね初期対応については職員は身につけている。緊急時には必ず医師、看護師との連絡、往診がとれる体制がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、職員全員が一通りの行動が取れるようにしている。隣接する医院と地域との協力体制を整えている。	・消防署立ち会いによる訓練を今年度1回行った。 ・隣接の医院および自治会とは災害時の協力が得られる体制ができている。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、職員がホーム内で共に力を合わせて生きることを目標としてホーム運営に努めており、入居者、職員はお互いに尊敬しあうことを日々実践している。	・利用者との信頼関係を築き、本人の身になって自尊心やプライバシーを大切に対応している。 ・職員とは、雇用契約時に個人情報の保護について、覚書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が誰にも気兼ねなく自分の思いや希望を口に出したり、実行できるような入居者と職員の間関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、入居者個別の関わりを行い、本人の意思はどこにあるのかを確認して、本人がしたいことへの最大限の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を第一にし、本人が望むことをお聞きし、生活に張りが出るような身だしなみやおしゃれを勧めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに応じたメニューを考え提供し、簡単なお手伝いをさせていただきながら、生活の中の大切な一場面としての食事風景を作るように努めている	・利用者の意向を大切に、買い物・食事づくりの一部に参加して貰っている。 ・好みや身体状態に合わせて味付け・調理方法を個別に変え、誕生会や行事では、楽しめる献立作りをしている。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりに応じた支援を毎日管理表に記載しながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	問題なく毎食後口腔ケアを実施できている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ホームの方針としてオムツはできる限り使用しないこととしている。排泄への配慮、支援は十分実施できている。	・自立支援の理念のもと、プライバシーに配慮しつつ排泄チェック表を活用し、声かけ・誘導している。 ・失禁時も素早い対処で気持ちよく過ごせるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化のよい便通に繋がるような食材を使ったメニューで食事を提供し、水分摂取を適度に促し、定期的にトイレに座る習慣を取っていただきながら便秘対策に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人ひとりが入浴を楽しめるような支援を行っているが、曜日、時間帯を限定したものの中で行っているのが現実です。	・週2回の入浴と必要に応じシャワー浴をしている。 ・入浴時間の長さは、利用者の希望に応じているほか、季節にはゆず湯、菖蒲湯など楽しめるようしている。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっていますが、消灯後入居者一人ひとりには他入居者に迷惑ならないような配慮の下に自由な時間を送られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用している薬について一通りの理解はしており、症状の変化等が認められたときには主治医と相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は入居者一人ひとりが今までの生活歴を活かした生活が入居生活の中でも実現できるような支援に眼を向けた対応に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者からの希望があったときにはできる限り実現する方向で対応している。しかし外出希望をする入居者に偏りがあり、すべての人が外出しているわけではない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの希望に応じて散歩や周りの商店街への買い物、喫茶店などに付き添い出かけている。</li> <li>外出頻度は利用者により異なる。遠出は家族の協力を得て実施している。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる人のみ支援しているのが現状です。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればほとんどのケースで支援ができている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境の整備には職員のみならず入居者の声に基づいて職員、入居者が一体になって工夫を凝らしている。	・玄関、リビングには季節の飾り付けをして、家庭的雰囲気心がけている。 ・調理場からは調理の匂いが生活感をひきだし、共用空間は清潔で温度・湿度・明るさなど適当である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム自体が狭いスペースを利用したものでありなかなか共用の空間の中でひとりになれる余裕はない。気のあった入居者はお互いの部屋を歩き来して空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の望むような、本人が好むような空間作りに家族、職員は話し合いを持って実現に努めている。	・使い慣れた家具類、テレビ、家族の写真、仏壇など思い思いのものを持ち込み、それぞれに居心地よく過ごせる居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が困らない程度の工夫を入居者の日常から汲み取って安全な生活を第一にそして自分でできることは自分でするを目標とした生活を送っていただけるように支援に努めている。		

ゆり苑（駒草）

事業所名	グループホーム ゆり苑
ユニット名	駒 草

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居されている高齢者はこの地域の生活者でもあることを管理者、職員が共通認識として持ち、入居者へは地域のいろいろな出来事をお話し、地域への興味を持っていただいている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物、地域の催し等に入居者、職員が出向き地域の人たちとの交流を日常的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者の人が入居しているホームということで、地域の在宅介護をしている人からの相談が多々あります。相談の中で認知症に関する理解や支援について発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の都合が折り合わず、いまだに運営推進会議が開催できておりません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者が多く入居しており、区役所保護課との繋がりを通して弊ホームの実情やケアサービスについて連絡を取り合っています。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については管理者の指導の下に職員は絶対に行ってはいけない行為として認識しております。拘束は職員の勝手な都合であると。拘束に変わる代替ケアを必ず探しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングの中で必ず話される項目です。職員が気付かずに行っているケアの中にも虐待に繋がるようなものが見られるときには職員全員に管理者が徹底し注意を喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記事業、制度についての大枠は理解していますが、実際に活用、支援している状況は認められない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者ご家族との契約等については十分な説明を行い、お互いに行き違いのないようにしている。理解、納得が得られないときには、理解、納得が得られるように話し合いを持つ。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心になって利用者、ご家族の意見、要望を積極的に吸い上げ、職員との話し合いを通して運営に反映している。		



ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者の個別の意見交換により、各職員より提案されたものを職員全員に回るようなスタイルで意見の反映を見えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の理事会時に、運営状況報告の中で勤務状況についての説明を代表者は受け、それに基づいて職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の配置上、法人内外の研修の実施はできていないのが現状です。しかし管理者が中心となつての現場の実情に合わせての指導、職員個々人の力量にあわせての指導が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が中心となつて近隣のグループホームとの交流が僅かながら行われている。サービスの質の向上にまでの交流は行われてはいない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するに当たって入居者対象者が安心して入居できるように相互訪問を重ねて安心して入居できるように努めている。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するに当たって家族が安心して入居対象者を入居させられるように相互訪問を重ね、関係作りをして安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要としてしているサービスが何かを入居希望者、家族、管理者が話し合い、弊ホーム利用以外のサービスをも含めて相談、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員がホームで有意義な時間を共有するために相互理解に努め、お互いを認め合うような関係作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員との相互理解の下に、入居者と家族の絆を深めるような支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者すべての人には当てはまりませんが、できり限りの支援は家族と連携しながら実施しています。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	駒草に入居する入居者は、職員同等か、それ以上に深い関わりを持ってお互いを支えあっている。すばらしい状況です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の家族から、相談、連絡が寄せられるときには、積極的にその支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	駒草の入居者は意思表示がはっきりしており、その意に沿わないと機嫌を損ねる。できる限り希望、意向に沿うよう努力を続けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者自身が今までの生活と違うことを認識しており、今の自分がしたいホームでの生活を模索している。職員は今を大事にした入居者の気持ちを大切にしながら関わりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者は「自分でできることは自分でする」をモットーに一日を送っている。職員は「できることはいつまでも自分でして欲しい」を念頭に支援を行っている。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人がホームでの暮らしをこのようにしたいという意向をはっきりと言葉にできる。職員はできること、できないことを見極めて本人に伝えながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者が言葉にしたり、行動をとったりといったことを観察し、職員はいろいろな角度から話し合い、アセスメントして介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなニーズに応えるために工夫をしているがお金もかかる。ニーズに対してお金のかからない工夫を模索している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の持つ施設、自治会、積極的に関わっていただける商店街の人たち、幼稚園の先生たちの応援をいただきながら楽しめる支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長くお付き合いしている主治医との関係を大切にして、情報の交換に努めている。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する医院の看護師や週一訪問する弊法人の看護師と連携は密に取れており、必要な情報交換、相談業務は円滑に行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、入院先主治医、弊法人医師、看護師、介護職員が一体となって情報交換を行い、利用者の早期退院、再入居に常時備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人、家族との話し合いを持ち、本人、家族の希望に沿って重度化したとき、終末期の対応に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を積んではいないが、概ね初期対応については職員は身につけている。緊急時には必ず入居者のことを知る複数の医師、複数の看護師との連絡、往診がとれる体制がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、職員全員が一通りの行動が取れるようにしている。隣接する医院と地域との協力体制を整えている。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者と職員との関係は非常に密である。いつまでもそのような関係を保てるようプライバシー、言葉掛けに注意して関係が崩れないような対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を気兼ねなく表出できるような職員との関係作りに努めており、できることは自分でするように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日が枠にはまったような生活にならないように注意して、入居者の考えている時間の過ごし方に耳を傾けられる限り本人の意向に沿った過ごし方ができるような支援を進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	駒草の入居者は自立度が高く、衣類、化粧等に関して自分独自の考えを持たれている。その点を大切にした支援を職員も理解をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のいろいろな希望に沿った食事作りに努めているが満足したとはなかなか言ってもらえない。食材を入居者と一緒に行きながら楽しみを引き出すような支援を行っている。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	駒草の入居者には糖尿病の方が複数おり、食事作りは協力病院栄養師の助言に基づいて行っている。毎日の血糖値測定や本人の状態に合わせた食事作りに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の自立度はが非常に高く、口腔ケアに関しては本人たちが毎食後口腔ケアを進んで行っている。それに対して職員は口腔ケアが適切に行われているかのチェックをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	軽い尿漏れ、便汚染がある入居者がパットを使用しています。自分ですべて処理しています。自分でうまく処理できないときには職員に申し出てきます。その時職員が援助をします。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に注意をし、運動（毎日の散歩）を促し便秘予防に努めています。糖尿病の方の療法も兼ねています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人ひとりが入浴を楽しめるような支援を行っているが、曜日、時間帯を限定したものの中で行っているのが現実です。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	駒草は特に厳密な消灯時間を設けてはいない。入居者が個人的に他入居者に迷惑とならないような配慮をしながら自分の時間を楽しんでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	駒草には糖尿病、特定疾患等を抱える入居者が入居されている。低血糖等に注意を払った内服支援に努め、症状、変化に敏感に対応できるような情報交換に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人がしたいことへの支援を行い、本人が満足するような時間の送り方をさせていただくようにしている。個人個人したいことが違うところに支援の配分が課題となっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物は日々の日課に取り入れられている。普段行けないところへの外出支援は、家族と話し合いながらできる限り実現できるようにしている。しかしまだまだ不十分。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員が自分の財布を持ち、必要ときに職員と共に外出、買物が無理なくできるように支援を行っている。		



ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	問題なく外部とのやり取り（電話、手紙等）ができるように支援ができています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については職員が手を加えることもあるが、入居者が自分たちの手で空間作りを行っている。入居者の共有スペースは入居者に任せている面が大きい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム自体が狭いスペースを利用したものでありなかなか共用の空間の中でひとりになれる余裕はない。気のあった入居者はお互いの部屋を歩き来して空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の望むような、本人が好むような空間作りに家族、職員は話し合いを持って実現に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立度の高い入居者です。しかし全てをお任せしている訳ではありません。やはり安心、安全、安楽な生活を主眼に職員と一緒に生活を作っていくようにしております。		

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	会議体としての形は整ってはいるが、参加者の日程が合わず開催できていない。	4月又は遅くとも5月中に第1回の運営推進会を開催する。	参加者の日程調整をまず進めるが、日程が折り合わない場合には集まれる人たちだけでまず開催をし、欠席者へは議事録を送付して確認をしていただく。	平成22年4月から 平成22年5月 2ヶ月間
2	35	職員全員が参加しての防災訓練の実施ができていない。職員によっては机上の訓練で終わってしまった職員がいる。	職員全員が当苑の防災に関するすべての情報を共有し、災害時にはどの職員も協同、連携が取れる管理体制を構築する。	定期的な防災訓練と防災に関する勉強会の実施を行っていく事とする。	平成22年4月から 平成22年5月 2ヶ月間
3	36	入居生活が長くなってくると入居者と職員の関係も密になる。反面、言葉遣い等に職員、入居者との関係に相応しくないものが認められる。	職員は介護師としての立場をわきまえ、自覚をもって日常介護に当たること。	職員各個人にこの件を伝え、相応しくない対応、言葉遣いが聞かれた時には、職員間で注意をしいあえるような環境を作っていくこととする。	平成22年4月から 平成22年5月 2ヶ月間
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。